

オオタカってどんな鳥？

出展：猛禽類保護の進め方（環境省）

千葉県レッドデータブック動物編 2011年改訂版（千葉県）



タカ目 タカ科

全長：50～56cm

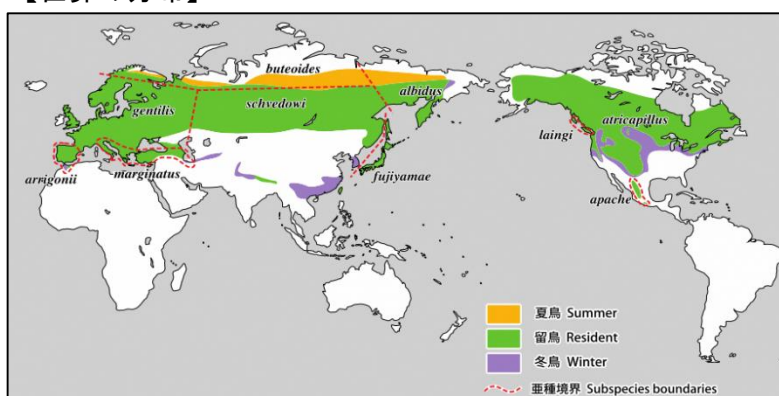
翼開長：110～130cm

1. 分布

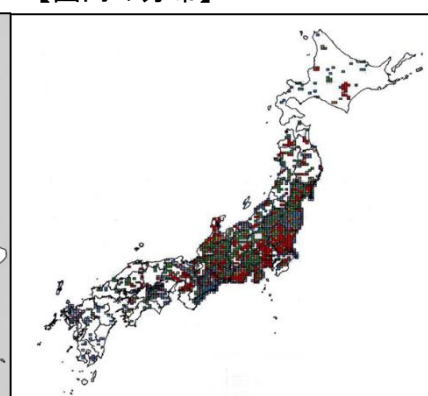
オオタカは、世界的には、北半球の広い地域に分布していて、亜種は8～10種いると言われています。一部「渡り」を行うものもありますが、多くは生息地に留まる留鳥です。

日本に生息するオオタカは亜種オオタカ (*A.g.fujiyamae*) と分類されていて、全国的に繁殖が確認されていますが統計的な情報はまだまだ少なく生態も未解明なことが多くあります。

【世界の分布】



【国内の分布】



2. 生息環境

平地から丘陵地帯にかけての農耕地などと樹林が混在する環境が主な生息地です。まとまった森林と開けた餌場が接している場所が望ましいとされています。

3. エサ

地域により異なりますが、小型の鳥からドバトやムクドリなどの中型の鳥が主要な獲物となります。一部、小動物やヘビなどの爬虫類を襲うこともあります。狩りは木の枝で待ち伏せして急襲したり、上空から急降下して狙います。

4. ペア

1羽のオスに1羽のメスがペアになり、この関係はどちらかが死亡するまで続くと言われていています。1年のうちの繁殖期に子どもを育て、子が独立するとペアは別行動をし、翌年の繁殖期に再会します。

5. 巢

巢はアカマツやスギに作ることが多く、地上11～19メートル程度の高さの枝分かれの根元の部分に作ることが多いとされています。

材料は木の枝で、中に木の皮や青葉をしきつめます。大きさは直径1メートル程度、厚さは25～100センチメートル程度が多く見られます。数年間使い続ける場合と毎年作り変える場合があります。

6. レッドデータと法律の指定

環境省では、絶滅のおそれのある種のリスト(レッドリスト)を概ね5年ごとに作成しています。オオタカは、平成29年10月現在、準絶滅危惧に指定されています(都道府県が作成する千葉県レッドリストでは重要保護生物に指定)。

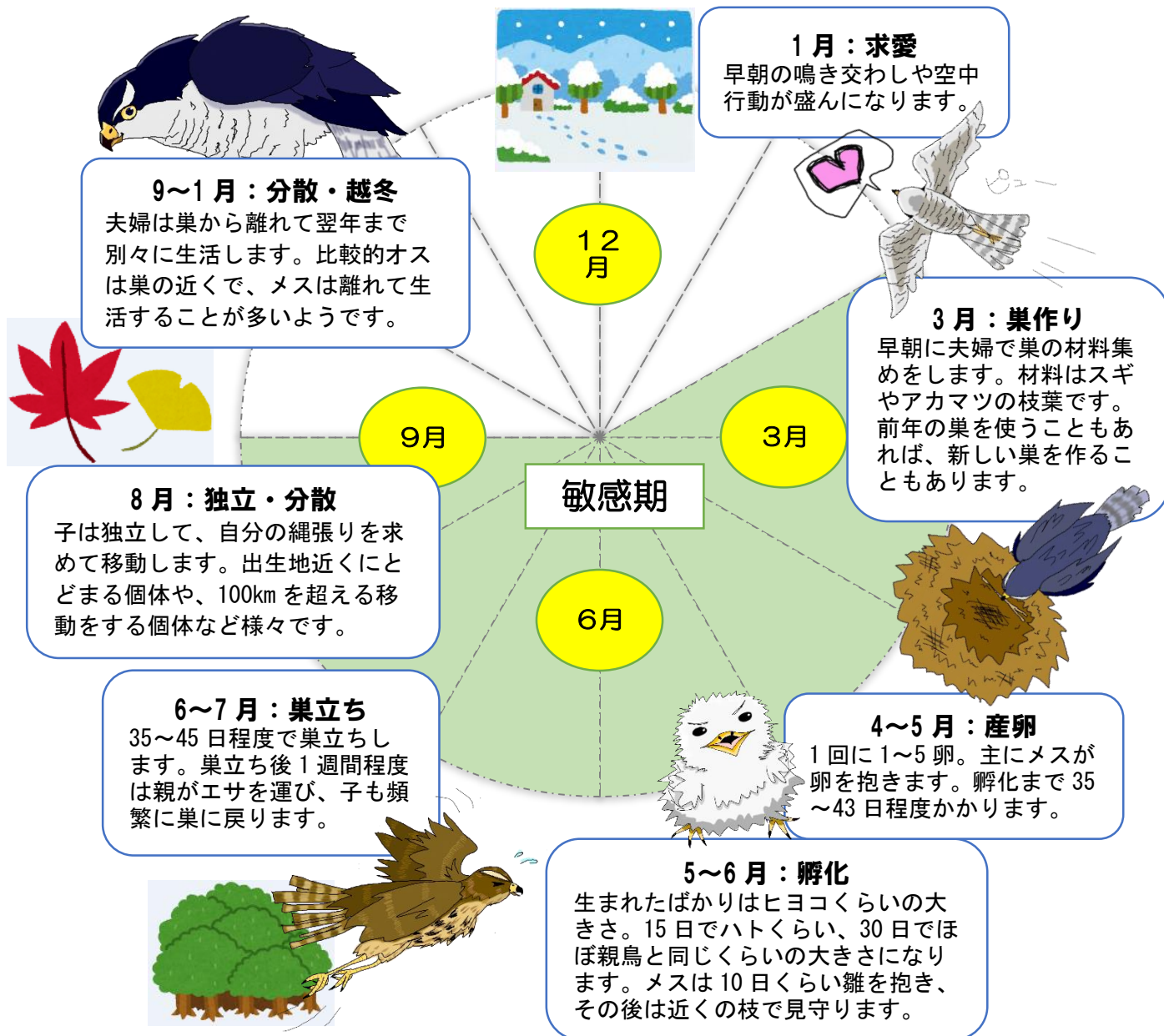
また、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」では、環境省レッドリストに掲載されている絶滅危惧種のうち、人為の影響により生息・生育状況に支障を来しているものを「国内希少野生動植物種」に指定しています。オオタカは、平成5年に「国内希少野生動植物種」に指定されましたが平成29年9月に同指定を解除されています。

年	環境省レッドリスト	種の保存法
1991年(平成3年)	危急種(現在の絶滅危惧Ⅱ類)に指定。	
1993年(平成5年)		国内希少野生動植物種に指定。
1998年(平成10年)	絶滅危惧Ⅱ類に指定。	
2006年(平成18年)	準絶滅危惧に指定。	
2012年(平成24年)	準絶滅危惧に指定。	
2017年(平成29年)		国内希少野生動植物種の指定解除。

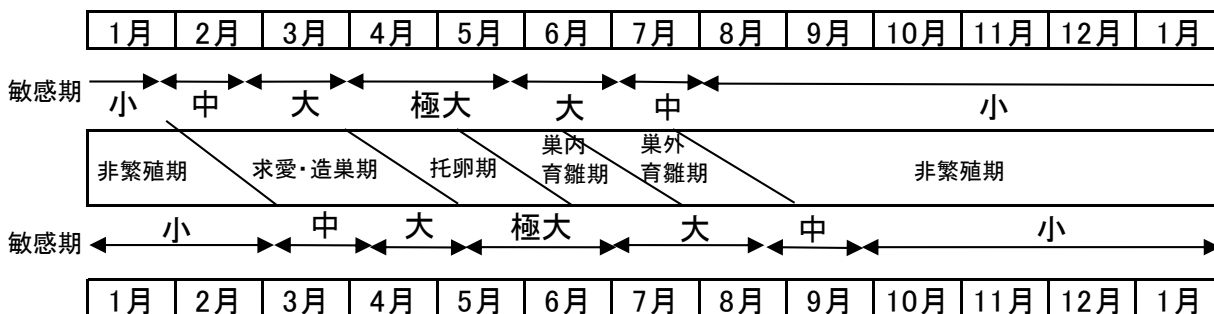
7. オオタカの1年

オオタカは、特に造巣期から産卵の季節にとっても敏感になります。この季節に巣に人が近づいたりすると、繁殖を中断したり、営巣を放棄してしまいます。

通常、卵は1～5個産み、雛は6月中旬から7月にかけて巣立ちます。



【「猛禽類保護の進め方（改訂版）」よりオオタカ的生活サイクル】



アンケート結果

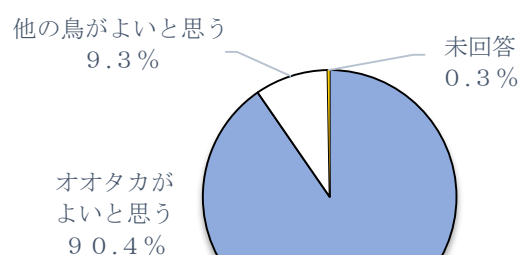
平成29年9月1日から9月22日まで、出張所、公民館、図書館等の市内12施設に投票箱を設置し、オオタカを市の鳥として制定することについての市民アンケートを実施しました。

有効投票749票のうち約9割に当たる677票で「オオタカがよいと思う」との意見をいただきました。

また、自由記載の意見では、「緑地やオオタカの保護を推進すべき」（39票）、「制定の必要性を感じない」（7票）などの意見をいただいています。

有効投票数：749票

オオタカがよいと思う	677票	90.4%
他の鳥がよいと思う	70票	9.3%
未回答	2票	0.3%



「他の鳥がよいと思う」と回答したものの内訳

得票数	内訳
6票	キジ
4票	スズメ、ハト
3票	カワセミ、ツバメ、ハヤブサ
2票	ウグイス、シラサギ、メジロ、フクロウ等
1票	サシバ、タゲリ、シジュウカラ、ホオジロ等